

[22] スワジランド

1. スワジランドの概要と開発課題

(1) 概要

(イ) スワジ族を中心とした王制国家であるスワジランドでは、東西冷戦の終了と共に国民の民主化意識が高まり、1993年、1998年に総選挙が実施されたが、2006年2月10日に発効した新憲法においても、依然として政党活動が明示的には認められていないなど、完全な民主化が今後の課題となっている。また、極めて高いHIV/AIDS感染率は、高失業率とともに、深刻な社会・経済問題になっている。

外交面では、現実的かつ穏健な外交政策をとっている。また、国土の三方を接する南アフリカ共和国に経済的に大きく依存しているため、同国との関係を最も重視している。

(ロ) 経済面では、砂糖、木材等の輸出用農林産物を生産し、鉱産物を産出する一方、自給自足の小農が国民の多数を占め、貧富の差が大きい。製造業では、砂糖精製やウッドパルプ等の一次製品の加工に加え、近年、米国によるアフリカ成長機会法（AGOA：African Growth and Opportunity Act）の恩恵を受け、順調に繊維輸出産業が発展した。しかし、2003年の大規模な干ばつにより農業部門は大きな打撃を受けた。さらに、2005年には世界貿易機構（WTO）協定発効から10年間認められていた繊維製品の輸入割当措置が廃止された結果、繊維製品の対米輸出は大きな打撃を受けた。現在、農業の多角化の努力を開始しているが課題は山積している。

(2) 開発課題

民主化及び貧困削減のための基礎生活分野の開発が課題である。道路などインフラ整備も必要性が高い。2003年から続いている干ばつ及び世界最高の感染率に達したHIV/AIDSの蔓延による生産世代の減少に伴う食糧危機への対処も課題となっている。

スワジランド

表-1 主要経済指標等

指 標		2004年	1990年
人 口 (百万人)		1.1	0.8
出生時の平均余命 (年)		42	57
G N I	総 額 (百万ドル)	2,401	941
	一人あたり (ドル)	1,660	1,200
経済成長率		2.1	8.6
経常収支 (百万ドル)		114	51
失 業 率 (%)		—	—
対外債務残高 (百万ドル)		470	298
貿 易 額 ^(注1)	輸 出 (百万ドル)	2,437.81	657.94
	輸 入 (百万ドル)	2,447.78	767.78
	貿易収支 (百万ドル)	-9.97	-109.84
政府予算規模 (歳入) (百万リランゲージ)		—	—
財政収支 (百万リランゲージ)		—	—
債務返済比率 (DSR) (対GNI比, %)		1.8	4.9
財政収支 (対GDP比, %)		—	—
債務 (対GNI比, %)		26.8	—
債務残高 (対輸出比, %)		25.0	—
教育への公的支出割合 (対GDP比, %)		6.2	—
保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %)		—	—
軍事支出割合 (対GDP比, %)		—	1.9
援助受取総額 (支出純額百万ドル)		116.5	54.0
面 積 (1000km ²) ^(注2)		17	
分 類	D A C	低中所得国	
	世界銀行等	IBRD融資適格国 (償還期間17年)	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況		—	
その他の重要な開発計画等		—	

注) 1. 貿易額について、輸出入いずれもFOB価額。

2. 面積については“Surface Area”の値 (湖沼等を含む) を示している。

表-2 我が国との関係

指 標		
貿易額 (2005年)	対日輸出 (百万円)	729.3
	対日輸入 (百万円)	565.0
	対日収支 (百万円)	164.3
我が国による直接投資 (百万ドル)		—
進出日本企業数 (2005年11月現在)		1
スワジランドに在留する日本人数 (人) (2005年10月1日現在)		12
日本に在留するスワジランド人数 (人) (2005年12月31日現在)		—

表-3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	—	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	2.7 (1994年)	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	10 (1996-2004年)	
普遍的初等教育の達成	成人 (15歳以上) 識字率 (%)	79.6 (2004年)	71.6
	初等教育就学率 (%)	77 (2003年)	77 (1991年)
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率 (初等教育)	1.01 (2003年)	
	女性識字率の男性に対する比率 (15~24歳) (%)	103 (2004年)	
幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	108 (2004年)	132 (1970年)
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	156 (2004年)	196 (1970年)
妊産婦の健康改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	370 (2000年)	
HIV/AIDS、マラリア、その他の疾患の蔓延防止	成人 (15~49歳) のエイズ感染率 ^(注1) (%)	33.4[21.2-45.3] (2005年)	
	結核患者数 (10万人あたり)	1,120 (2004年)	
	マラリア患者数 ^(注2) (10万人あたり)	2,835 (2000年)	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	62 (2004年)	—
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	48 (2004年)	—
開発のためのグローバルパートナーシップの確保	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	1.8 (2004年)	5.3
人間開発指数 (HDI)		0.5 (2004年)	0.622

注) 1. []内は範囲推計値。

2. マラリア患者数についてはHDR2006に掲載されていないため、HDR2005を参照。

2. スワジランドに対するODAの考え方

(1) スワジランドに対するODAの意義

スワジランドでは、近年頻発する干ばつによる食糧危機や蔓延するHIV/AIDS等の問題を抱えており、我が国がODAによる支援を行うことは、「人間の安全保障」の観点からも意義が大きい。また、スワジランドは第2回及び第3回アフリカ開発会議 (TICAD : Tokyo International Conference on African Development) にムスワティ3世国王が出席するなど、我が国の対アフリカ外交に対する積極的な協力国である。

(2) スワジランドに対するODAの基本方針

スワジランドは、一人当たりのGNIが比較的高く (1,660ドル、2004年)、援助実績は少額に留まっているが、今後とも、同国の民主化、貧困削減努力を支援するため、基礎生活分野を中心に援助実施を検討していく方針である。

(3) 重点分野

我が国はこれまで、無償資金協力として主に食糧援助、貧困農民支援及び給水分野における支援を実施すると共に、技術協力として主に農業、保健・医療、行政分野での支援を実施してきている。円借款については、2000年9月に同国に対する初めての円借款を供与しているが (「北部幹線道路建設計画」、今後も案件規模、債務状況等に留意しつつ、道路整備などの分野につき検討していく。

3. スワジランドに対する2005年度ODA実績

(1) 総論

2005年度のスワジランドに対する無償資金協力は約2.59億円 (交換公文ベース)、技術協力は0.73億円 (JICA経費実績ベース) であった。2005年度までの援助実績は、円借款44.12億円、無償資金協力77.73億円 (以上、交換公文ベース)、技術協力35.57億円 (JICA経費実績ベース) である。

(2) 無償資金協力

食糧援助 (WFP経由) 及び貧困農民支援を実施するとともに、青少年保護及び教育環境の改善を目的とした草の根・人間の安全保障無償資金協力2件、またスワジランド・テレビ局に対する番組ソフト支援として一般文

スワジランド

化無償資金協力1件を実施した。

(3) 技術協力

給水分野の技術協力プロジェクト「地方給水事業実施体制の強化」を継続して実施し、保健・医療、農業等の分野において21名の研修員受入を実施した。また、感染症対策を目的とした医療機材の供与を行った。

表-4 我が国の年度別・援助形態別実績（円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース）
（年度、単位：億円）

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2001年	—	2.33	3.52 (3.49)
2002年	—	1.82	2.58 (2.56)
2003年	—	7.73	2.26 (2.23)
2004年	—	1.52	1.19 (1.15)
2005年	—	2.59	0.73
累計	44.12	77.73	35.57

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 2001～2004年度については、日本全体の技術協力事業の実績。2001～2004年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2005年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。

表-5 我が国の対スワジランド経済協力実績

（暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額）

歴年	政府貸付等	無償資金協力	技術協力	合計
2001年	—	3.16	3.38	6.54
2002年	1.52	0.47	2.53	4.52
2003年	1.02	1.82	2.18	5.02
2004年	0.48	3.11	1.27	4.86
2005年	21.54	3.51	0.86	25.91
累計	24.56	60.81	25.73	111.13

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額（政府貸付等については、スワジランド側の返済金額を差し引いた金額）。
2. 技術協力は、JICAによるもののほか、留学生受入や関係省庁及び地方自治体、公益法人による技術協力を含む。
3. 四捨五入の関係で、合計値が合わない場合がある。

表-6 諸外国の対スワジランド経済協力実績

（暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額）

歴年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合計
2000年	日本 6.0	デンマーク 0.3	カナダ 0.3	米国 0.2	イタリア 0.2	6.0	2.8
2001年	日本 6.5	オランダ 1.1	デンマーク 0.4	イタリア 0.3	アイルランド 0.1 カナダ 0.1	6.5	4.2
2002年	日本 4.5	イタリア 3.8	オランダ 1.1	アイルランド 0.3	カナダ 0.2	4.5	6.6
2003年	イタリア 6.7	日本 5.0	英国 1.4	米国 1.0	カナダ 0.4	5.0	12.7
2004年	オランダ 97.6	日本 4.9	イタリア 2.7	英国 1.4	米国 1.2	4.9	104.5

出典) OECD/DAC

表-7 国際機関の対スワジランド経済協力実績

(暦年、DAC集計ベース、単位：百万ドル、支出純額)

歴年	1位	2位	3位	4位	5位	その他	合計
2000年	CEC 5.9	UNTA 1.6	AiDF 1.4	UNICEF 0.6	UNHCR 0.3	0.5	10.3
2001年	CEC 18.9	UNTA 1.1	UNICEF 0.6	UNDP 0.3 UNHCR 0.3		0.8	21.9
2002年	CEC 4.2	AiDF 2.9	UNTA 1.7	UNICEF 1.5	UNFPA 0.6	1.1	12.1
2003年	CEC 9.0	UNTA 1.8	WFP 0.9	UNICEF 0.8	AiDF 0.7	1.2	14.3
2004年	CEC 9.6	UNICEF 1.2	WFP 0.7	UNFPA 0.6	UNDP 0.4	-0.7	11.8

出典) OECD/DAC

注) 1. 順位は主要な国際機関についてのものを示している。
2. 四捨五入の関係で、合計値が合わない場合がある。

表-8 我が国の年度別・形態別実績詳細 (円借款・無償資金協力年度E/Nベース、技術協力年度経費ベース)

(年度、単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
00年度 までの 累 計	44.12億円 〔内訳は、2005年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html)〕	61.74億円 〔内訳は、2005年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html)〕	25.41億円 研修員受入 197人 専門家派遣 20人 調査団派遣 134人 機材供与 131.51百万円
2001年	なし	2.33億円 食糧増産援助 (2.00) 草の根無償 (12件) (0.33)	3.52億円 (3.49億円) 研修員受入 25人 (23人) 専門家派遣 1人 (1人) 調査団派遣 46人 (46人) 機材供与 2.06百万円 (2.06百万円)
2002年	なし	1.82億円 食糧援助 (WFP経由) (1.00) 緊急無償 (干ばつ災害) (0.49) 草の根無償 (7件) (0.33)	2.58億円 (2.56億円) 研修員受入 29人 (28人) 専門家派遣 1人 (1人) 調査団派遣 24人 (24人)
2003年	なし	7.73億円 第二次地方給水計画 (2/2) (5.17) 食糧増産援助 (1.43) 食糧援助 (WFP経由) (1.00) 草の根・人間の安全保障無償 (2件) (0.13)	2.26億円 (2.23億円) 研修員受入 32人 (30人) 専門家派遣 1人 (1人) 調査団派遣 15人 (15人) 機材供与 35.9百万円 (35.9百万円)
2004年	なし	1.52億円 食糧援助 (WFP経由) (1.00) 国立博物館に対する保存・展示機材供与 (0.42) 草の根・人間の安全保障無償 (1件) (0.10)	1.19億円 (1.15億円) 研修員受入 38人 (36人) 専門家派遣 2人 (2人) 調査団派遣 1人 (1人) 機材供与 40.85百万円 (40.85百万円)
2005年	なし	2.59億円 食糧援助 (WFP経由) (1.00) 貧困農民支援 (1.09) スワジランド・テレビ局に対する番組ソフト供与 (0.38) 草の根・人間の安全保障無償 (2件) (0.12)	0.73億円 研修員受入 21人 専門家派遣 1人 調査団派遣 1人 機材供与 0.50百万円

スワジランド

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2005年度までの累計	44.12億円	77.73億円	35.57億円 研修員受入 335人 専門家派遣 26人 調査団派遣 221人 機材供与 210.86百万円

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。
 3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
 4. 「貧困農民支援」は、2005年度に「食糧増産援助」を改称したもの。
 5. 2001～2004年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2001～2004年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2005年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計については2005年度までにJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
 6. 調査団派遣にはプロジェクトファイディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
 7. 四捨五入の関係で、累計値が合わない場合がある。

表－9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件（終了年度が2001年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
地方給水事業実施体制の強化プロジェクト	04. 7～07. 2

表－10 実施済及び実施中の開発調査案件（終了年度が2001年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
開発計画の円滑な実施のための全国地図整備計画調査	99. 6～01. 6
荒廃地農村環境改善計画調査	00. 1～03.11

表－11 2005年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
マンジーニ青少年ケア施設改修計画 ザamani小学校家庭科教室棟建設計画